

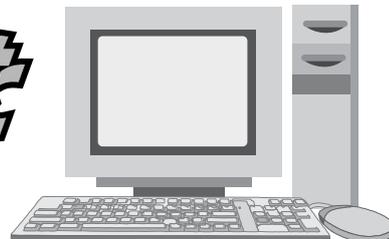
# かわさき 図書館だより



図書館ホームページ：<http://www.library.city.kawasaki.jp/>

## インターネット用パソコンが設置されました

川崎・中原・麻生図書館にて



川崎市立図書館では、利用者の方へのサービス向上とIT社会への対応を考え、図書館内にインターネット端末を設置できるよう検討してまいりました。今回デル株式会社からパソコンのご寄贈があり、川崎・中原・麻生の3館にて、利用者の皆様にインターネット用パソコンをご利用いただけるようになりました。最新のニュースや画像など、インターネットならではの情報がご覧いただけます。従来の図書による調べ物に加えてご活用ください。

今後は3館での成果を基に、来年度より幸・高津・宮前・多摩の4館でもインターネットのご利用ができるよう、パソコンの設置を計画しております。

中原図書館では郷土・行政資料室（3階）の前に設置されています。  
※ご利用はお一人30分（延長により最大1時間）となります。



デル株式会社からはパソコンのほかに絵本  
160冊をご寄贈いただきました。

## かわさき読書の日のつどい

### ご参加ありがとうございました



読み聞かせのお部屋にて



昨年11月16日（日）に中原市民館にて第3回目の「かわさき読書の日のつどい」が開催されました。当日は、子どもの本の創作・翻訳などで有名な松岡享子さんのお話が聞けるとあって、ボランティア活動をされている方々など多くの皆さまにご来場いただきました。また市民館3階の各会場では、読み聞かせ・紙芝居・工作・展示などの楽しい催しがあり、親子で参加された方々にもご好評いただきました。

新コーナー

# We Love! KAWASAKI

このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介していきます。第1回目は、川崎でのレジャー・散策にお役立ちの本を紹介いたします。



## 第1回 かわさきで遊ぶ!楽しむ!



『るるぶ川崎市』  
JTBパブリッシング

あのガイド誌『るるぶ』の川崎版です。「散歩」「グルメ」「カルチャー」「手みやげ」「遊び場」を特集に川崎をすみずみまで紹介しています。キャッチフレーズは「緑の中で過ごす休日」。



『子どもとでかける川崎シティあそび場ガイド』  
メイツ出版

公園や川遊びスポット、商店街やレストランなど、親子で行きたいおでかけ情報が満載です。ママの目でチェックしたおすすめ度も便利です。



『かわさき散歩 道と川と山の歴史をたずねて』  
川崎教育文化研究所

市内の名所・旧跡をめぐる散策コースが豊富なエピソードとともに紹介されています。散策がだんぜん楽しくなります!



『かわさき生活ガイド 市民便利帳 2005年度(保存版)』  
サンケイリビング新聞社/川崎市

おなじみの市民便利帳がリニューアル!今回サンケイリビング新聞社との協働で、生活ガイドに加えて子育てマップやおすすめのお店の情報なども。楽しく読んで使える1冊です。

【読書のまち・かわさき】図書館講演会

### 山崎洋子講演会

## 本に救われた波乱の人生

小説家で、テレビなどでも活躍の山崎洋子先生をお迎えして、お話をうかがいます。

ミステリー作家が語る、小説について、人生について、そして...? ご参加お待ちしております。

- 日時** 平成18年3月18日(土) 午後2時~3時30分
- 会場** 中原市民館 大ホール(武蔵小杉駅下車徒歩5分)
- 講師** 山崎 洋子 先生(小説家)
- 定員** 450名(申込み多数の場合は抽選になります)
- 申込み** 往復ハガキに、①参加希望者全員の氏名(1枚で4名まで)  
②代表者の住所・電話番号をご記入のうえ、  
下記の住所まで。2月末日消印有効。

〒211-0063 中原区小杉町3-417  
川崎市立中原図書館 講演会係

**問合せ** 川崎市立中原図書館 TEL722-4932



1947年生まれ。新城高校卒業。コピーライター、脚本家などの仕事を経たのち、小説家としてデビュー。デビュー作の『花園の迷宮』は第32回江戸川乱歩賞を受賞。以後多くの推理小説を発表。評伝やエッセイ、また、舞台の脚本・演出も手掛ける。

このコーナーでは、川崎で広く読書活動や、研究などにたずさわる方々の活躍を紹介しています。

ハンディを持ちながらも趣味に、読書に・・・  
ポジティブな女性

## 宮崎悦子さんをクローズアップ



### 《宮崎悦子さん》

視覚障害のハンディを持ちながらも写真の活動をつづける宮崎さん。週に一度、中原図書館にて対面朗読のサービスを受けられています。

宮崎さんの対面朗読のご利用は今年で17年目。今までに数多くの本の朗読を受けています。小説などの朗読テープも聞かれるそうですが対面朗読の良いところは、「興味のある部分を繰り返し読んでもらえるところ」「写真や絵などもわかりやすく説明してもらえる」と言われます。趣味である写真撮影の本も、「図などを詳しく説明してもらっています」。

宮崎さんが写真を撮ったきっかけは、今から23年ほど前、ご主人とふたりで旅行に行かれた時のこと。旅先で、ご主人が木登りをしていて、その姿を写真に撮って欲しいと頼まれたそうです。勘をたよりに7～8メートル離れた場所からシャッターを切り、帰って来て現像に出してみると、それが思った以上の出来栄え。2年後に第1回目の盲人写真展があり、応募されたところ見事入賞。以来写真を趣味

にして、盲人写真展への応募を毎年つづけられています。

写真以外にも様々なことにチャレンジしてきた前向きな宮崎さんですが、4、5年前に一度写真を続けるか、断念するかで悩まれたことも。写真の趣味は、撮影に同行してくれる方と、現像された写真の説明をしてくれる方と、両方に適切な説明のできるサポートの方が必要になるため、他の趣味よりも都合が付きづらい、という面があるためでした。

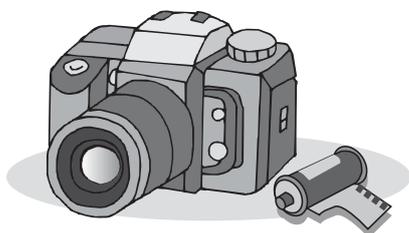
しかしそこで、宮崎さんは合唱やピアノなどいくつかの趣味を控えて、写真の趣味をつづけることを決心。理由は「写真は思い出を形として残すことができるし、自分自身の記念にもなる」と言われます。写真をつづけることを決心してからは、本格的に写真の勉強をスタート、写真展でも優秀賞を受賞されました。

そんな宮崎さんに今後の目標をたずねると、「自分が写真を撮ることで、何か人の役にたてることはないか、と考えている」とのこと。前向きな明るさで周囲の人びとまで元気にしてしまうような、そんな宮崎さんの作品と人柄です。



### 《宮崎さんの作品》

宮崎さんの撮影方法は、まず同行者の方から詳しく情景の説明を受け構図を考えます。次に光や風、音を感じてタイミングを図りシャッターを切ります。作品からはその場の楽しさや美しさが伝わってきます。



# かわさき歴史めぐり (8)

## 徳川氏の関東入国と川崎市域－8－

法政大学名誉教授  
村上 直

川崎宿の基礎となる四村のうち、いずれが基盤になっていたかと言われましたならば、やはり歴史・地理的視点からの考察によりまずと新宿・砂子の二村が挙げられます。長谷川長綱の町立計画は、慶長9年の没後は引き続き代官小泉次大夫吉次らによって継承されたものと思われます。そして19年後の元和9年(1623)になって、はじめて四村を伝馬賦課村とする川崎宿が宿駅として設置されることになったのです。当時は36疋を常備伝馬として、幕府は200両を伝馬持立金として貸与することによって宿駅の維持がはかられたのです。しかし、継立の負担に耐えられず、生活に苦しむ百姓が多かったようです。『川崎年代記録』(森家文書)によりまずと「元和九年御伝馬仰付させられ、町裏住居之久根崎・小土呂村加ハリ、四ヶ町挙て相勤、其頃、御往来之御大名方、妙遠寺へ御休所二御入成られ候由、寛永に至り宿御取立、新御伝馬宿二相成」とあります。

川崎宿が設置されたのは、家光が3代将軍の宣下を受けるため、父秀忠と江戸城から東海道を上洛した元和9年のことです。そのときには本陣も新設されておらず、宿駅の妙遠寺を将軍・大名の休泊所としていたのです。川崎宿は神奈川と品川の両宿の間が5里(約20キロメートル)はあったので、伝馬の負担の軽減をはかるため、請願をうけて中間地点に

設置することになったのです。当時は六郷川を控えて宿駅の整備も不十分でしたし、中原街道がよく利用されていました。休泊所にあてられた妙遠寺は、小杉御殿や陣屋の付近にあった妙泉寺より起立した寺院です。しかも妙泉寺の開基は代官小泉次大夫吉次といわれています。これらによりまして中原街道と東海도가密接に関係しているのを知ることができます。

やがて寛永5年(1628)になりますと、新宿(町)に田中兵庫の仮本陣が設けられ、同12年には正式に本陣になりました。のちに、本陣は砂子(町)の惣左衛門(佐藤)や、惣兵衛の本陣も設けられました。しかし、それより先、同9年(1632)12月には伝馬継立の負担が重いため、宿役人から幕府に川崎宿の廃止を訴えたりしました。これに対し、幕府は米の給付や手当ての支給など行っていますが、やがて、寛永17年(1640)になると、常備伝馬が36疋から100疋に引き上げられました。結局、川崎宿の伝馬役・歩行人足役の負担は、東海道の伝馬宿の基準でした100疋・100人となったのです。なお、この年に小杉御殿は仮御殿の新規造営が行われ、江戸へ向かう地域のシンボルとして、ますます重要な位置を示すようになりました。



編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橋分館(788-1531)  
幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)  
中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 菅覧所(946-3271)